

一学期終業式校長講話 7月26日(木)

1学期の終業式のお話は3つです。

1つめは、**あいさつ応援団**の活動についてです。代表委員の活動に3年生が応援団として加わりました。すると次は2年生が。次は1年生と4年生が。次は、2年生と6年生が。そして、3年生と5年生へと、挨拶のリレーがされました。とてもすてきなリレーになったと思います。



2つめは、「**励まし・称賛・感謝**」です。各学年の姿を紹介します。



3つめは、「**雨にもまけず**」のことで。たくさんの方が「**雨にもまけず**」を暗唱に挑戦しました。現在124人が合格し、認定証を渡すことができました。すごいなあと思うと同時にとっても嬉しくなりました。そんな中、2年松組のみなさんが全員覚えてくれました。2年松組のみなさんに来てもらっているの、発表をしてもらいます。よく聞いていてください。

〈2年松組の発表〉



すごいね。見事でした。全校の皆さん放送室まで聞こえるくらい大きな拍手をお願いします。2年松組のみなさんありがとう。

「雨にもまけず」を暗唱するのは大変ですが、覚えるだけの価値がある詩です。この詩の魅力、すばらしさの一つをこれからお話しします。宮澤賢治が「雨にもまけず」にこめた「いのち」といえるものです。

それは、この中のある言葉にこめられています。3回同じ言葉が繰り返されます。なんという言葉でしょう。

この「行って」という言葉です。この「行って」に宮澤賢治の強い思いが詰まっています。「あの人がどうしているかな、つらいだろうな、せつないだろうな、悲しいだろうな」と思った時に、心配をしてその人に駆け寄っていく。その人のところに**行って**、そこで助けてあげる、力をかしてあげる。そういう生き方が大事なのだ、そういう生き方を自分はしたい、という思いです。

では、その反対は何でしょう。困っている人がいても、遠くで見ている、見て見ぬふりをする、です。そんな生き方はしたくない、と言っているのです。

宮澤賢治は「困っている人、悲しんでいる人がいたら、その人のところに**行って**、その人の力になれることをしてあげる」そんな生き方をしたい。という思いを、この「**行って**」という言葉にこめているんです。

今年の7月広島県、岡山県、愛媛県で大雨による被害がありました。全国からボランティアの人が復旧作業のお手伝いをしています。東日本大震災でも多くのボランティアの人がかけつけました。これは「**行って**」の思いと同じです。



学校生活にもたくさんありますね。近くでお友だちが転んでケガをしたとき、駆け寄って大丈夫？と声をかける。保健室へおんぶしてあげている6年生の姿を見たこともあります。給食で牛乳をこぼしてしまった。気づいた人が雑巾をもって駆け寄ってふいてあげる。これも「**行って**」の思いに通じるものです。

今日は最後に、この「**行って**」に思いをこめて、全員で「**雨にもまけず**」を読みましょう。

<全員で読む>

「雨にもまけず」は、1年間続けます。まだの人は、ぜひ挑戦にきてください。2学期また元気な顔で登校して来てください。待っています。

よく 見(み)聞き(き)きし(分)わり(わ)かり
そして(わ)すれ(ず)
野原(のはら)の 松(まつ)の
林(はやし)の かげの 小さな
かやぶきの 小屋(こや)にいて
東に 病気(びょうき)の子ども(こ)もあれば
行(い)って かんび(よ)うして(やり)
西に つかれた母(はは)あれば
行(い)って そのいね(の)たば(を)おい
南に 死(し)に(そ)うな人(ひと)あれば
行(い)って こわ(が)らなく(も)も
いい(と)言い
北に けんか(や)しよう(が)あれば
つま(ら)ない(から)
やめ(ろ)と(言い)